

全国曹洞宗青年会

# SOUSEI

2014.5 No.165

## 繋がる

特集1

繋がる祈り

〜東日本大震災慰霊法要レポート

特集2

想いを繋げる

〜40周年記念事業 いよいよ本格スタート

40<sup>th</sup>  
ZENSOUSEI  
40th Anniversary

繋がる想いが未来を拓く

特集1

# 繫がる祈り

〜東日本大震災慰霊法要レポート



# 「東日本大震災慰霊速夜法要 綴る願い、重ねる祈り～繋がる想いが未来を拓く」 開催レポート



## 福

島県伊達市成林寺様で、平成26年3月10日、全国曹洞宗青年会主催、全日本仏教青年会の共催で、『東日本大震災慰霊速夜法要』が行われました。本行事には、全日本仏教青年会の方がたや全国各地の曹洞宗青年会員をはじめとして、全国から約150人の参加者が集まりました。

11時30分より、全曹青災害復興支援部アドバイザーの宮下俊哉師が講師を務め「避難所としての寺院の可能性について」の研修が行われ、防災ストックヤードの必要性、備蓄品の管理方法や参考例などのお話がありました。質疑応答の際には具体的な質問が多く、災害時の寺院のあり方について、皆熱心に聴講しました。

昼食は「備蓄食品の調理実習」として、境内の炊き出し実演において、火を使わずに炊ける「アルファ米」の作り方を説明し、その「アルファ米」と典座寮が用意した豚汁が振る舞われました。参加者が実演会場となったテントに列をつくり、思い思いの場所で食事をする光景は、実際の炊き出しのようでした。「アルファ米」を食したことのある参加者は少なく、炊きたてのご飯と変わらない美味しさに皆関心を示していました。

午後になってもなかなか気温が上がらない寒空のもと、午後1時20分より境内の納経塔で、主催者として櫻井尚孝全曹青会長より開会の挨拶が述べられ、全国から寄せられた約6,000巻の写経を納めるべく、100名を超える随喜僧侶と共に、納経諷経が行われました。

その後、本堂に移動し、午後2時20分より「全日本仏教青年会による慰霊法要」が、同理事長である伊東政浩師の導師のもと行われました。法要の始まる前に伊東政浩師

より「これからも被災地への支援や祈りを、宗派の垣根を越えて共に行いましょう」というご挨拶をいただき、金峯山青年僧の会の方がたによる法螺吹奏で法要が始まりました。震災発生3年目の1日前の深夜法要ではありましたが、地震が発生した午後2時46分には黙禱を捧げ、本堂は鎮魂の祈りに包まれました。法要再開後、全国日蓮宗青年会の方がたの「咒陀羅」と「修法」によるご祈禱が行われ、最後には参加者全員で「四弘誓願」を唱えました。

次に、曹洞宗福島県青年会による「慰霊法要施食会」が行われ、導師は同会会長である富澤秀樹師が務めました。参列の皆様は、東日本大震災物故者供養の為、また早期復興を願って焼香されたことと思います。

引き続き山形曹洞宗青年会による「萬燈供養」が行われました。導師は同会会長の瀧田

一成師が務め、納経師は東北管区理事の渡辺和弘師が務めました。きれいに並べられた蠟燭、また島根県の保育園児が使用済蠟燭から作ったキャンドル(中国管区理事・城市泰紀師のご縁で寄贈)も、そのひとつひとつに願いが込められていました。「綴る願い、重ねる祈り」という主題のように、蠟燭の灯で皆の願いが繋がったように感じました。参列されていた方がたも、東北地区連絡協議会のスローガンである「東北はひとつ」の言葉を実感されたことと思います。

1日を通して、第20期全国曹洞宗青年会のスローガンである「繋がる願いが未来を拓く」を主催者である全曹青会員自らが深く感じられる法要になりました。この想いを40周年記念事業をはじめとする様々な事業や今後の広報活動を通して、少しでも次代に繋げていきたいと誓願しました。

## 福島県伊達市成林寺 東日本大震災慰霊関連行事

### 平

成26年3月11日、福島県伊達市成林寺様を会場に「行茶活動」並びに「東日本大震災慰霊法要」が開催されました。

午前からは全国各地の青年僧侶が参集し準備。福島県最北端の国見町での避難生活が続き仮設住宅入居者の方27名と、来賓の宗教者災害支援連絡会代表・島蘭進先生をお迎えしました。

12時半からの昼食のうどんには、全曹青災害復興支援部の伊藤和貴師の地元である静岡県の特産、干し桜えびが添えられました。

引き続き行茶。和やかな雰囲気でお話が進み、仮設住宅の方が私達僧侶を気遣って下さる場面も多々見られました。筆者自身も仮設住宅入居の90代女性からお茶菓子を

手渡され、「若いからって縮こまってちゃダメだよ。若いんだからしっかり食べてしっかりやんなよ」と励まされ、心が洗われるような気持ちになりました。そして、そうか、この方がたは知ってか知らずか、日頃からこうして無財の七施を行じ合い、支え合って生きていらっしゃるのだなと感じました。

午後2時からは福島県曹青の随喜者7人と合流し、東北管区理事・渡辺和弘師を導師に、慰霊法要が厳修されました。法要は、前日に納経諷経が行われた納経塔前で修行される予定でしたが、寒風の吹きすさぶ中、仮設住宅入居者の方がたの体調を考慮して本堂でお勤めしました。

法要後は、福島県長秀院御住職・渡邊祥文老師の御法話。最初に「先程の法要では、津波や関連死で亡くなった方がたのためだけでなく、皆さんのご苦勞を絶対に忘れませんよ、地元に戻ってから伝えますよ」という想いを込めて読経したのでですよ」とのご説明がありました。そして老師が震災の苦難の中で見聞した数々の「支え合う姿」をご紹介され、「希望の光だけは絶対に忘れないように、共に歩んで行きたい」と結ばれました。

また、御法話の最中には、地震のあった午後2時46分に合わせて鐘九声の後、黙禱を捧げました。神道の氏子さん、クリスチャンもいらっしゃる中、皆が一心に手を合わせるお姿を目の当たりにし、筆者も思わず取材用のカメラから手を離し、そっと手を合せました。





## 岩手県山田町龍泉寺 3月11日 復興祈願・慰霊法要、活動の灯前法要

**平** 成26年3月11日、岩手県山田町龍泉寺様を会場に「東日本大震災復興祈願・物故者供養」法要が厳修されました。

法要に先立ち、午後1時30分より同県奥州市金性寺御住職・松森弘隆老師の御法話をいただき、午後2時46分に合わせ殿鐘九声の後黙禱。続いて、龍泉寺御住職・石ヶ森桂山師を導師に、復興祈願と犠牲になられた方の御供養。読経の中、参列者全員が本堂正面での焼香に向かい、それぞれの想いを

胸に手を合わせました。

その後、本堂を出て境内脇にある「活動の灯」前に移動し、全曹青膝館晋哉副会長を導師に法要を勤め、こちらでも多くの方にご焼香いただきました。

再び本堂に戻り、コーヒーやお茶で冷えた体を温めながら、山田町の方と随喜の僧侶が並んで語り合いました。震災の日の事、今日までの苦勞、これからの希望と不安。被災地以外からもこの想いを共有し、一緒に進むことの大切さを改めて感じました。



## 宮城県 角田市・亘理町 東日本大震災慰霊 関連行事

**平** 成26年3月11日、宮城県角田市及び亘理町で、「東日本大震災慰霊関連行事」が開催されました。

### 活動の灯前法要

11日午前10時半より

全曹青災害復興支援部及び東日本大震災災害対策本部復興支援室分室の主催で行われました。会場となった宮城県角田市の日照



院様は、全曹青の震災復興支援の後方支援拠点となったお寺であり、その活動の証として、また、今後の復興支援活動継続を誓願する目的で境内に「活動の灯」が建立されました。法要の導師として自照院御住職・錦織泰禅老師をお迎えし、また、自照院梅花講の皆さんによる御詠歌のお唱えのもと、慰霊供養を厳修いたしました。法要後、安達瑞樹全曹青副会長が活動の灯前にて挨拶をし、今後も継続的に復興支援活動に取り組み決意を述べました。

### 當行寺様における 慰霊・復興祈願法要随喜

11日午後2時より

活動の灯前法要の後、沿岸部にある亘理町に移動。活動の灯前法要に随喜した6名が、引き続き当町當行寺様にて慰霊・復興祈願法要に随喜いたしました。震災で亡くなられたお檀家様の提灯が灯る本堂で行われた慰霊法要にはご遺族が多数参列され、読経と御詠歌が奉詠される中、一心に手を合わせご焼香されました。引き続き厳修された復興祈願の大殿若祈禱では、宮城一円から参集された随喜寺院と共に、大殿若経を転読させていただきました。

### 荒浜公民館における 慰霊法要・行茶活動

11日午後2時より

當行寺様での法要と並行して、ほど近くにある荒浜公民館内ホールで活動を行いました。酒井泰寛総合企画副委員長が法話。ホール内で午後2時46分に黙禱を行った後、

慰霊法要を厳修し、参列者にご焼香いただきました。その後、行茶活動に移行いたしました。荒浜地区では、落語の披露も含めて何度か行茶活動を行いました。今回も亘理町社会福祉協議会さんとの協働のものとの開催となりました。今回の活動には、上智大学の学生さんや一般の方も参加され、終始和やかな中でも、最近の困りごとなどをお話いただきました。

### 宮城慰霊行脚

平成26年3月11日、宮城県曹洞宗青年会主催の慰霊行脚並びに大川小学校で慰霊法要が行われました。

当日は風花の舞う風の強い大変寒い日でしたが、集合会場となりました江林寺様には53名の参加者が集まりました。マイクロバスで移動したのち、多くの児童職員の方が亡くなった大川小学校周辺と、港や病院等で多くの被害が出た雄勝地域、天雄寺様の2コースに分かれての慰霊行脚が行われました。

慰霊法要の会場となる大川小学校で合流した一行は、集まった多くの遺族の方、宮城県石巻市大川地区の他宗を含めた御寺院様と共に午後2時46分に黙禱を捧げた後、宮城県第12教区祥雲寺・矢口好文御住職を導師に仰ぎ、慰霊法要を営みました。

「津波に襲われた沿岸部を中心に、被災された方がたの慰霊と、ご遺族の方や地域の方がたの安心を目的に」との想いで行われた慰霊行脚ですが、道行く方がそっと手を合わせていたのが印象的でした。

取材・文／長岡俊成(広報委員長)・岡本真宰(広報副委員長)・  
宮入真道(広報副委員長)・加藤芳憲(広報委員)・  
長岡宏宗(広報委員)





ZENSOUSEI 20th

全曹青  
レポート

## 第5回執行部会

平成26年1月14日午後3時より、第5回執行部会が曹洞宗檀信徒会館3階菊の間で開催されました。

全国曹洞宗青年会創立40周年を迎えるにあたって各種記念事業を企画してきましたが、予算の削減や、海外徒弟研修を予定していたタイ国の政情不安など様々な情勢の変化に伴い、事業全体も大幅な見直しの必要が生じました。櫻井会長、荒木道宗40周年記念事業実行委員長からの現状報告の後、全体での各種事業について見直し、各事業の関係者に分かれての分散会を経て再び全体協議が行われました。

今後の方向性を左右する大事な話し合いの為、数多くの意見が交わされました。

## 第6回執行部会

平成26年2月6日午後1時30分より、第6回執行部会が曹洞宗檀信徒会館3階菊の間で開催されました。

各委員会から活動報告は、以下のとおりです。

### ■40周年記念事業実行委員会

- ・青少年教化事業／
- ・全国徒弟研修会の企画検討
- ・傾聴研修事業／
- ・第4回研修会までの確認
- ・一般対象事業／
- ・味来食堂の事業計画
- ・記念式典事業(祝賀会・基調講演)／
- ・会場設定・基調講演講師の確認
- ・記念誌事業／
- ・広報委員会と共同で作成

### ■総合企画委員会

- ・「願いをひとつに」
- ・写経プロジェクトの現在
- ・アンケートハガキ集計経過報告
- ・頒布物受注用FAXメールについて
- ・新頒布物について

### ■広報委員会

- ・広報誌『SOUSEI』の編集状況
- ・リニューアルした
- ・公式サイト『般若』について

### ■国際特別委員会

- ・京都マラソン2014併催／
- ・Inter Faith 諸宗教対話駅伝等のイベント

### ■『観世ふおん』特別委員会

- ・『禅の友』『きやら』等への広告掲載

### ■事務局

- ・3月10日に予定している東日本大震災慰霊速夜法要の具体的な提案
- ・平成26年東大寺千僧法要について
- ・愛知県梅花流60周年記念奉詠大会

およびイベントについて

### ■災害復興支援部

- ・活動経過報告と今後の取り組みについて
- ・納経塔・活動の灯前での慰霊法要について
- ・ふくしまチャイルドラインについて
- ・支援部会計報告

## 第6回理事会

平成26年2月7日午前10時より、第6回理事会が曹洞宗檀信徒会館3階菊の間で開催されました。

前日の執行部会の上程議案を理事の方がたに御確認いただき、たくさんのご意見をいただきました。

## 平成26年度 第1回執行部会・理事会

今年度第1回目となる執行部会・理事会が、平成26年4月16日・17日、ベルサール芝公園及び曹洞宗檀信徒会館で開催されました。執行部会の冒頭では、櫻井会長が「いよいよ40周年記念事業が本格化する。皆さんのより一層の御協力をお願いしたい」と挨拶し、早速、40周年記念事業に関する審議を開始しました。会議の前半では、40周年記念事業実行委員会から9名が参加し、執行部全体で、40周年

記念事業について(とりわけ全国徒弟研修会について)検討しました。その後、各委員会・事務局・災害復興支援部から活動報告が発表され、その上で、上程議案「全曹青オリジナル散華の頒布について」「華燭の典の追加制作について」が審議されました。また、執行部会と同時並行で行われた監査を、会計・監事・各委員会会計が担当しました。

2日目の午後からは各管区理事が参集して理事会が開会。「各位には、思い込みを排していただき、慎重審議をお願いしたい」との櫻井会長からの挨拶の後、執行部会で確認された各議案について審議・承認されました。2日間に渡る、執行部会・理事会は、40周年記念事業の大きな山場となる、「40周年記念式典」に向けて、気持ちを一つにすることのできた機会となりました。一人でも多くの会員・OB諸兄の御参加をお待ちしております。



平成26年度第1回理事会の様子

## 特集2

想いを繋げる〜40周年記念事業 いよいよ本格スタート!

40周年記念事業実行委員会

# 荒木道宗委員長に聞く



―40周年記念事業各事業のポイントや留意した点を教えてください。

①『全国徒弟研修会』と『国際子ども禅のつどい』未来へ向けての大きな足音』

何より、大本山總持寺二祖峨山韶禪禪師650回大遠忌という節目の年に、大本山總持寺において開催できる点に意義があります。全国規模での徒弟研修会も未だかつてなかったのではないのでしょうか。また、参加する徒弟が、禅師様とともに法要を勤める事ができ、さらに、法要後は禅師様より絡子を御親授いただける運びとなっています。これは何よりの経験と感動を得られるものと確信いたします。やがて成長し、参加した徒弟が、その絡子を掛けて、御本山に上山してくればと念願しております。

研修では様々なプログラムが準備されています。これらの取り組みが一つのモデルとなり、今後全国で開催されるであろう「徒弟研修会」などで展開されれば、この上ない喜び

です。また、全曹青の特徴であり、らしさの一つである「国際的活動」の一環として、全日本仏教青年会などを通して取り組んできた「海外の仏教徒とのつながり」を活かし、国境を超えて仏教徒同士として連帯し、また、お互いの違いを認め合う機会になればとも思っております。ぜひとも、多くの皆さんに参加いただきたいと思えます。

②味来食堂〜僧食を学ぼう

この事業の一番のポイントは「参加のしやすさ」です。お寺と接点のほとんどない都市生活者にとって、お寺での「精進料理教室」の参加者のハードルはこちらが思っている以上に高く、都心の料理教室での開催は、そのハードルを下げる意図があります。

また、もう一つのポイントとして、「安心・安全な食」とはどのようなかを学んでいただくという点があります。化学調味料を使わず、また、食品添加物の使われていない素材や調味料を使い、いかに手間なく調理で



# 「この40周年という節目は 50周年に向けての繋ぎ目 しっかりと振り返って 総括をしておく」



きるかを体験いただきます。その取組の中で、国際的にも「MOTTAJINAI」として認知されてきている「勿体もの本質」を知り、それを余すところなくいただく、という精神をお伝えしたい。

また、昨今は味噌汁そのものを作らない方が増えていると聞きます。さらに、和食の基本である出汁のとり方がわからない方も多い。本事業では、精進料理における出汁のとり方が、いかに容易なものかをお伝えするとともに、精進料理に対して一般の方があまりにハードルの高い印象を持つ中で、気軽に取り組める入口をまずはご用意しました。精進料理が、宗門における優良なコンテンツであることは論をまたないところですが、まずはその門をくぐっていただくことが大切です。この事業は、全曹青が受け継いできた「大衆教化の接点を求めて」を具現化したものの一つとして考えております。

### ③ 傾聴研修会

全曹青では、第18期より基幹事業として「電話相談員養成事業」に取り組んできました。計らずともその経験が、東日本大震災

発災後の被災地において、実地で試されるに至りました。全曹青会員の多くが、被災地での行茶ボランティアに携わり、その現場で「傾聴」のスキルが活かされ、全曹青の被災地支援活動の一翼を担っています。本事業では、「傾聴」の原理・原則に立ち返り、「傾聴」を体系的に深く学び直すとともに、これまで全曹青の諸先輩方が培ってきた「傾聴」するその姿勢とその手段を、この40周年の節目に全国の会員と共に捉えなおす目的です。

被災地の福島で開催する第2回傾聴研修会では、東日本大震災の被災地復興支援をテーマとしております。被災地の現状を自らの体験を通して知るためにも、全国各地から多くの会員諸兄の参集を願っております。

### ④ 40周年記念式典

式典にお集まりいただく歴代会長並びに各期出向者の皆さまに、どのような想いをもつて、また、議論があつて、各事業を推進してこられたのか、そのプロセスを率直にお聞きし、それを参加者の皆さんと共に財産にしたいと思っております。また、先輩方の想いと同時に、当時の悩みをお聞きすることで、現役の私たちの悩みの共有とともに、全曹青40年の歩みの中で底流に流れていた想い・悩み・そしてその打開策を浮かび上がらせればと思っております。

2日目に御講演いただく青山俊董老師には、本当に数多くの機会に全曹青と関わっていただきました。そのようなご縁のある老師をお招きできることに、尊い仏縁を感じます。また、全曹青発足当時は、尼僧団の方も役員として名を連ねておりました。これも又、曹洞宗の誇るべき足跡です。今回の御講演

を機縁にして、尼僧の方がたとのリレーションを築くことができればとも思っております。禅文化学林として開催される記念式典ですから、広く一般の方がたに参集いただければと思えます。

### ⑤ 40周年記念誌「40+」

私自身、今回のこの40周年という節目は、50周年という大きな節目に向けての「つなぎめ」と考えています。その意味では、この記念誌は、30周年から40周年にかけての10年間をしっかりとふりかえり、総括することを目的としています。また、先般、その10年間に会長をお務めいただいた先輩方にお集りいただき、「皆さんの考える、全曹青らしさとは？」という問いかけをさせていただきました。そのお答えを軸に、いくつもの自然災害を経験した激動の10年間において、全曹青会員が何を想い、どう行動し、前の期から自分の期へと何を受け継ぎ、それを次の期にどう引き継いだのかを、浮かび上がらせられればと思っております。

—40周年記念事業を推進する上で、留意していることはありますか？—

今期のスローガン「繋がる想いが未来を拓く」に則った企画の立案、実施をしている点です。40周年という、いわば「中継ぎ」の節目であるという点を踏まえ、各事業を推進しております。また、今回は多方面に亘る事業を展開しております。それは、全曹青に対する間口を拡げるといふ方針からです。また、宗門には、坐禅、写経、精進料理

など、多くの取組があります。それを、「大衆教化の接点を求めて」という方針のもとで活かし、社会の中にどうその接点を築くのか、その点に留意しています。しかしながら、それらを展開する各加盟曹青の地元には極力負担をかけないよう留意しております。全曹青のスケールメリットを活かしながら、各管区の皆さまと共に推進して参ります。

—40周年記念事業を推進する中で、次の期や世代に伝えたいことは何ですか？

その期に集った全国の曹青会からの出向者と各加盟団体が、双方向で交流を行うことがプラスに作用することが多々あるということです。お互いの存在や活動を認め合うということが、それぞれの活動に資することに繋がるのではないのでしょうか？さらには、頒布物の紹介による波及力など、多くのメリットが得られるということが、挙げられるのではないのでしょうか。

—荒木委員長の考える、「全曹青らしさ(イズム)」とは、何でしょうか？

この質問に対しては、私は明確な答えを未だ見出せていません。思うところとしては、「四十にして惑わず」という言葉の通り、全曹青も創立から40周年を迎えて不惑の年齢となりました。この40周年を機に、地に足をつけた上で、そろそろ「全曹青らしさ」とは何かについて、関わる人全てが考え、それを形成・共有すべきではないでしょうか。そこに関わるることとして、私自身が危惧し



## 「四十にして惑わずの言葉通り 全曹青らしさをとらえ直して 皆で共有する成熟期に進むべき」

ているのは、青年僧侶らしい、自由闊達な雰囲気や勢い、発想が失われることです。過去の『曹青通信』を見てみると、今よりも全曹青全体が自由闊達で、活き活きとし、エネルギーが豊富であったように思います。会則や前例を重視しすぎるあまりに、会員が萎縮し、また、会の運営が硬直化・官僚化していないか点検すべきだと思います。

—最後に、加盟各曹青会、全曹青会員への呼びかけ、メッセージをお願いいたします。

40年の節目の年にあたり、いよいよ、会としての「らしさ」や未来へと繋げていきたい「想い」を考えられる年になったという感があります。私自身、師匠が立ち上げに関わっていたという縁もありますし、40年という歳月は私自身の年齢とも重なります。導かれて委員長を務めているという想いです。ぜひとも、共に、その瞬間や場に、できるだけ多くの方がたに立ち会ってほしいと念願します。

また、先輩方には、どうか温かく見守っていただきたい。過去に皆様方が感じた想いを、私たち若い世代に伝えていただきたいと思えます。

聞き手・構成／広報委員長 長岡俊成

## 全国徒弟研修会

徒弟研修事業は大本山總持寺 二祖峨山韶碩禪師650回大遠忌の記念事業と協働し、『全国徒弟研修会 with 国際子ども禅のつどい～未来へ向けての大いなる足音～』として大本山總持寺様に於いて開催いたします。

現段階で、参加者が様々な出会いや経験を通して、楽しみながら学べる、かなりドキドキわくわくしていただけるような企画を、盛り沢山計画しております。参加条件の整った子弟が居られる方は、是非ご検討ください。

なお、本山内でご移動の際はご自身の大きい足音は控え目に、お静かにご移動いただきますようお願い申し上げます。

担当者／加藤月海

(委員・大阪曹洞宗青年会)



担当者が  
意気込みを語る

40周年記念事業  
ここがポイント!

## 傾聴研修会

全曹青各会員の皆さまと、「傾聴」するその姿勢とその手段を捉えなおす目的で開催いたします。既に第1回目を福岡県安國寺様にて終え、6月下旬には第2回目を福島県で開催いたします。この福島においては「声なき声に耳を澄ます」というテーマで行います。傾聴の基礎を学ぶ中で青年宗侶の意識の共有を図り、また発災から3年目の被災地の現状を捉えなおす機会になればと考えております。計4回の開催を予定しておりますので、是非ともご参集くださいますよう、お願い申し上げます。

担当者／野田志裕

(委員・宮崎県曹洞宗青年会)



## 記念式典

全曹青40周年記念式典は、40年の歴史の中に刻み込まれてきた先輩諸老師の精進と智慧への感謝の意を表し、更なる会の発展を誓うべく執り行います。

式典に引き続いてのパネルディスカッションでは、創立より今日までの活動を映像にまとめ、その時代を担った方がたには懐かしく、また他の方にも興味深く分かりやすくご覧いただけたらと思います。

この記念式典の盛況を願い、何卒ご参集いただきます様、伏してお願ひ申し上げます。

担当者／渡邊亮弘

(委員・東三河曹洞宗青年会)



## 味来食堂

料理教室という形を通じ、一般の方がたへ僧侶が作る料理を学び親しんでいただく取り組みです。近年の様々な食に対しての変化に伴い、今我々のもつ精進料理というものには世間からも高い関心をもたれています。そこでただ健康志向ということだけではなく、食のまごころを我々と共に学んでいただきたいものです。これから6月、7月、9月と都内で料理教室を開催いたします。布教教化の可能性を広げるため我々も精進して参ります。

担当者／河口智賢

(委員・曹洞宗山梨県青年会)



## 記念誌『40+』

記念誌事業ではタイトルを『40+ (プラス)』として全曹青40年間の活動を紹介して参ります。特に15期30周年より現在20期までの会長をお務めになられた方に当時を振り返っていただき、この10年間の全曹青の軌跡を浮き彫りにしていく所存です。また、40周年記念事業であります記念式典、傾聴研修会、味来食堂、徒弟研修会と各事業の様子を紹介並びに告知させていただきます。全曹青が50年100年と活動していく上で振り返って見ていただけるような記念誌にして参ります。

担当者／神作紹道

(副委員長・宮城県曹洞宗青年会)



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。  
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

- 298 長谷寺 様
- 377 宝積寺 様
- 399 法界寺 様
- 461 正法寺 様
- 宮城県
- 47 西光院 様
- 149 喜松院 様
- 319 大永寺 様
- 324 光巖寺 様
- 440 城國寺 様
- 475 城皇寺 様
- 岩手県
- 23 清雲院 様
- 28 聖福寺 様
- 81 円城寺 様
- 171 光西寺 様

- 185 長泉寺 様
- 186 大光寺 様
- 269 龍泉寺 様
- 青森県
- 22 恵林寺 様
- 27 蘭庭院 様
- 38 清涼寺 様
- 48 松源寺 様
- 80 法円寺 様
- 100 澄月寺 様
- 119 大安寺 様
- 180 中央院 様
- 189 乗照寺 様
- 山形県第1
- 12 正徳寺 様
- 23 耕源寺 様

- 32 安養寺 様
- 101 長泉寺 様
- 117 永源寺 様
- 146 現福寺 様
- 224 長泉寺 様
- 242 定泉寺 様
- 山形県第2
- 322 洞松寺 様
- 345 光岳寺 様
- 山形県第3
- 465 総徳寺 様
- 515 長徳寺 様
- 595 荒川寺 様
- 641 宝泉寺 様
- 708 光浄寺 様
- 718 長淵寺 様

- 738 善応寺 様
- 秋田県
- 1 鱗勝院 様
- 79 東林寺 様
- 85 寶圓寺 様
- 165 能持院 様
- 179 長泉寺 様
- 180 龍泉寺 様
- 187 西光寺 様
- 235 龍巖寺 様
- 241 安樂寺 様
- 252 長泉寺 様
- 258 鳳来院 様
- 260 松庵寺 様
- 265 倫勝寺 様
- 323 恩徳寺 様

- 北海道第1
- 69 大林寺 様
- 254 北大寺 様
- 北海道第2
- 102 興禅寺 様
- 187 放光寺 様
- 190 禅林寺 様
- 241 孝徳寺 様
- 248 総泉寺 様
- 359 東明寺 様
- 454 大禅寺 様
- 北海道第3
- 244 報国寺 様
- 460 道貫寺 様

## ボランティア基金感謝録

平成26年 1 / 1 ~ 3 / 31 取扱い分

- |            |                 |                |                 |
|------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 東京都 青松寺 様  | 静岡県 正徳寺 様       | 広島県 聖光寺 様      | 福島県 吉祥院 様       |
| 東京都 観音寺 様  | 静岡県 宗心寺 様       | 広島県 清光寺 様      | 福島県 法界寺 様       |
| 東京都 青松寺 様  | 静岡県 興昌寺 様       | 広島県 潮音寺 様      | 福島県 龍雲寺座禅会 様    |
| 東京都 泉岳寺 様  | 愛知県 安楽寺 様       | 山口県 亨徳寺 様      | 福島県 龍徳寺 様       |
| 東京都 清巖寺 様  | 愛知県 天桂寺 様       | 山口県 弘濟寺 様      | 福島県 成林寺 様       |
| 東京都 雲慶院 様  | 愛知県 天桂寺 様       | 山口県 弘濟寺 様      | 福島県 正法寺 様       |
| 東京都 静勝寺 様  | 愛知県 寶珠院 様       | 鳥取県 海蔵寺 様      | 福島県 性源寺 様       |
| 神奈川県 西有寺 様 | 愛知県 松月寺 様       | 島根県 玉雲寺 様      | 福島県 浄圓寺 様       |
| 神奈川県 東照寺 様 | 愛知県 成福寺 様       | 島根県 松源寺 様      | 福島県 曹洞宗福島県青年会   |
| 神奈川県 宗泉寺 様 | 愛知県 福田寺 様       | 島根県 石見曹洞宗青年会 様 | 福島県 カレンダー委員会 様  |
| 神奈川県 泉秋寺 様 | 愛知県 青原寺 様       | 島根県 宗淵寺 様      | 福島県 曹洞宗福島県青年会 様 |
| 埼玉県 全龍寺 様  | 愛知県 西福寺 様       | 島根県 円光寺 様      | 福島県 自照院 様       |
| 埼玉県 鈴木みつ 様 | 愛知県 長養院 様       | 愛媛県 興雲寺 様      | 宮城県 城國寺 様       |
| 埼玉県 廣徳院 様  | 愛知県 慶泉寺 様       | 愛媛県 晴光院 様      | 宮城県 城皇寺 様       |
| 群馬県 龍海院 様  | 愛知県 常楽寺 様       | 愛媛県 大通寺 様      | 宮城県 大永寺 様       |
| 栃木県 成高寺 様  | 愛知県 太平寺 様       | 愛媛県 西禅寺 様      | 宮城県 西光院 様       |
| 栃木県 大中正寺 様 | 愛知県 悟春院 様       | 福岡県 法恩寺 様      | 岩手県 大光寺 様       |
| 茨城県 龍心寺 様  | 岐阜県 岐阜寺 様       | 大分県 長安寺 様      | 岩手県 聖福寺 様       |
| 千葉県 重俊院 様  | 三重県 四天王寺 様      | 長崎県 洪徳寺 様      | 岩手県 長泉寺 様       |
| 千葉県 満蔵寺 様  | 三重県 一心院 様       | 長崎県 智性院 様      | 岩手県 光西寺 様       |
| 千葉県 慶林寺 様  | 三重県 劍光寺 様       | 長崎県 東光寺 様      | 青森県 蘭庭院 様       |
| 千葉県 春山寺 様  | 三重県 庭岩寺 様       | 佐賀県 本光寺 様      | 青森県 澄月寺 様       |
| 山梨県 法久寺 様  | 三重県 長楽寺 様       | 佐賀県 長得寺 様      | 青森県 大安寺 様       |
| 山梨県 円通院 様  | 三重県 大智院 様       | 熊本県 熊本第一宗務所 様  | 青森県 常光寺 様       |
| 静岡県 普門院 様  | 三重県 高泉庵 様       | 熊本県 岩崎哲秀 様     | 青森県 乗照寺 様       |
| 静岡県 顕光院 様  | 三重県 東陽寺 様       | 宮崎県 法泉寺 様      | 山形県 永源寺 様       |
| 静岡県 医王寺 様  | 京都府 智源寺 様       | 長野県 蕃松院 様      | 山形県 長淵寺 様       |
| 静岡県 松久院 様  | 京都府 宝泉寺 様       | 長野県 大徳寺 様      | 山形県 正徳寺 様       |
| 静岡県 旭傳院 様  | 京都府 善光寺 様       | 長野県 広徳寺 様      | 山形県 耕源寺 様       |
| 静岡県 円心寺 様  | 京都府 徳運寺 様       | 長野県 檢校庵 様      | 山形県 長泉寺 様       |
| 静岡県 栄林寺 様  | 大阪府 月泉寺 様       | 長野県 頼岳寺 様      | 山形県 光岳寺 様       |
| 静岡県 正法寺 様  | 大阪府 黄梅寺 様       | 福井県 空印寺 様      | 秋田県 能持院 様       |
| 静岡県 礼雲寺 様  | 大阪府 南昌寺 様       | 東北管区大会での募金浄財   | 秋田県 長泉寺 様       |
| 静岡県 窓泉寺 様  | 奈良県 薬師寺 様       | 新潟県 雲居寺 様      | 秋田県 東林寺 様       |
| 静岡県 宝持院 様  | 和歌山県 宗應寺 様      | 新潟県 耕隆庵 様      | 秋田県 鳳来院 様       |
| 静岡県 源光院 様  | 兵庫県 向榮寺 様       | 新潟県 東岸寺 様      | 秋田県 長泉寺 様       |
| 静岡県 久翁寺 様  | 兵庫県 大龍寺 様       | 新潟県 不動寺 様      | 秋田県 鱗勝院 様       |
| 静岡県 観音寺 様  | 兵庫県 兵庫第二宗務所     | 新潟県 海天寺 様      | 北海道 道貫寺 様       |
| 静岡県 正泉寺 様  | 岡山県 青年会 様       | 新潟県 松泉寺 様      | 北海道 孝徳寺 様       |
| 静岡県 高林寺 様  | 岡山県 岡山県曹洞宗青年会 様 | 新潟県 妙喜寺 様      | 北海道 興禅寺 様       |
|            | 岡山県 済渡寺 様       | 新潟県 雲泉寺 様      |                 |

※『SOUSEI』164号 P.10掲載の「ボランティア基金感謝録」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
(誤)「群馬県第十一教区研修会」→(正)「群馬県第十教区研修会」

# 贊助費淨納御芳名簿

平成26年 1 / 1 ~ 3 / 31取扱い分

## ●東京都

14 法音寺 様  
17 龍澤寺 様  
25 慈眼院 様  
51 泉岳寺 様  
151 静勝寺 様  
171 高岩寺 様  
173 江岸寺 様  
177 清巖寺 様  
232 葉師寺 様  
294 観栖寺 様  
311 妙光院 様

## ●神奈川県第1

285 泉秋寺 様

## ●神奈川県第2

2 西有寺 様  
10 随流院 様  
21 東照寺 様  
56 宗泉寺 様  
131 乘福寺 様  
184 龍鳳寺 様  
394 長尾寺 様

## ●埼玉県第1

166 全龍寺 様  
190 廣徳院 様  
434 安養院 様

## ●埼玉県第2

206 榮林寺 様  
207 蓮光寺 様  
219 長田寺 様  
247 天岑寺 様  
256 豊泉寺 様  
272 楞巖寺 様  
331 曹源寺 様

## ●群馬県

3 龍海院 様  
166 光性寺 様  
188 實相寺 様  
194 善宗寺 様  
217 正泉寺 様

## ●栃木県

52 傑岑寺 様  
67 海潮寺 様  
69 慶翁寺 様  
131 高德寺 様  
167 興福寺 様  
175 本光寺 様

## ●茨城県

2 天徳寺 様  
23 源慶院 様  
135 医王院 様  
182 龍心寺 様

## ●千葉県

7 満蔵寺 様  
8 重俊院 様  
29 慶林寺 様  
62 龍湖寺 様  
95 寶應寺 様  
121 宝林寺 様  
243 最勝福寺 様  
272 永泉寺 様

## ●山梨県

162 法久寺 様  
280 円通院 様

## ●静岡県第1

1 顕光院 様  
50 盤龍寺 様  
126 一乗寺 様  
175 霊山寺 様  
182 大通寺 様  
401 旭傳院 様  
464 正泉寺 様  
495 普門院 様

## ●静岡県第2

240 医王寺 様  
319 源光院 様  
321 円心寺 様  
362 福泉寺 様  
363 観音寺 様

## ●静岡県第3

608 養勝寺 様  
609 医王寺 様  
678 宗心寺 様  
682 長松院 様  
766 正法寺 様  
836 東泉庵 様  
870 窓泉寺 様  
959 智恩斎 様  
973 松向寺 様  
1208 法雲寺 様  
1225 光明寺 様  
1228 榮林寺 様  
1234 松久院 様

## ●静岡県第4

1017 龍泉寺 様  
1065 高林寺 様  
1177 礼雲寺 様

## ●愛知県第1

28 長松院 様  
55 長全寺 様  
70 慈濟寺 様  
101 成福寺 様  
112 太平寺 様  
127 龍潭寺 様  
130 如意寺 様  
139 祇園寺 様  
148 法泉寺 様  
190 天桂寺 様  
208 日光寺 様  
216 青原寺 様  
229 宝泉寺 様  
293 康勝寺 様  
313 長松寺 様  
338 長養院 様  
342 常樂寺 様  
607 林宗寺 様  
612 廣圓寺 様  
635 永澤寺 様  
1118 観音寺 様  
1119 松月寺 様  
1229 玉林寺 様  
1250 松福寺 様

## ●愛知県第2

684 花井寺 様  
819 江福院 様

969 慶泉寺 様

## ●愛知県第3

411 福田寺 様  
422 安樂寺 様  
428 寶珠院 様  
484 興昌寺 様  
525 極樂寺 様  
1106 宝鏡寺 様

## ●岐阜県

2 大亀寺 様  
15 東林寺 様  
28 観音寺 様  
90 林広院 様

## ●三重県第1

4 東陽寺 様  
7 海蔵寺 様  
24 一心院 様  
37 四天王寺 様  
39 庭岩寺 様  
59 長楽寺 様  
83 涼泉寺 様  
166 陽光寺 様  
183 光徳寺 様  
188 廣泰寺 様  
246 宝泉院 様  
269 大蓮寺 様  
316 劍光寺 様

## ●三重県第2

392 大義院 様  
401 光明寺 様

## ●滋賀県

24 海蔵寺 様

## ●京都府

34 神應寺 様  
36 圓藏院 様  
73 春現寺 様  
236 善光寺 様  
306 智源寺 様  
386 徳運寺 様  
389 万福寺 様  
409 換骨堂 様

## ●大阪府

26 天徳寺 様  
38 慈願寺 様  
56 南昌寺 様  
69 永興寺 様  
94 黄梅寺 様

## ●奈良県

18 薬師寺 様

## ●和歌山県

52 宗應寺 様

## ●兵庫県第1

2 満福寺 様  
287 向榮寺 様  
338 勝龍寺 様  
375 金剛寺 様

## ●兵庫県第2

115 慈眼寺 様  
117 法円寺 様

188 興禅寺 様

## ●岡山県

3 長川寺 様  
131 濟渡寺 様

## ●広島県

8 聖光寺 様  
27 清光寺 様  
34 吉祥寺 様  
46 雙照院 様  
58 宗光寺 様  
63 長福寺 様  
93 賢忠寺 様  
102 潮音寺 様  
167 正安寺 様

## ●山口県

4 宝蔵寺 様  
25 弘濟寺 様  
190 亨徳寺 様  
262 慈光寺 様

## ●鳥取県

1 興雲寺 様  
17 普含寺 様  
146 妙楽寺 様  
195 普音寺 様

## ●島根県第1

315 永明寺 様

## ●島根県第2

1 松源寺 様  
6 善福寺 様  
17 円光寺 様  
39 常喜寺 様  
43 福正寺 様  
63 龍覚寺 様  
203 玉雲寺 様

## ●愛媛県

32 清盛寺 様  
113 西禅寺 様  
146 興雲寺 様

## ●福岡県

158 報恩寺 様  
163 金泉寺 様

## ●大分県

76 福巖寺 様  
93 神光寺 様  
95 洞昌寺 様  
134 長安寺 様

## ●長崎県第1

43 東光寺 様  
78 宝泉寺 様

## ●長崎県第3

101 南明寺 様

## ●佐賀県

117 本光寺 様  
123 大弘寺 様  
161 長得寺 様  
238 香雲寺 様

## ●熊本県第1

48 神照寺 様  
65 清水寺 様

## ●宮崎県

35 法泉寺 様

## ●長野県第1

121 浄光庵 様  
123 真蔵寺 様  
243 広徳寺 様  
265 蕃松院 様  
279 大徳寺 様  
370 日輪寺 様

## ●長野県第2

373 頼岳寺 様  
382 頼重院 様  
400 長久寺 様  
493 吉祥寺 様  
566 広明寺 様  
595 檢校庵 様

## ●福井県

196 空印寺 様

## ●石川県

1 天徳院 様

## ●富山県

49 徳林寺 様  
83 永久寺 様

## ●新潟県第1

358 円光寺 様  
400 東福寺 様  
408 昌福寺 様  
453 龍澤寺 様  
496 長楽寺 様  
728 妙喜寺 様

## ●新潟県第3

521 松泉寺 様  
535 普光寺 様  
580 賞泉寺 様

## ●新潟県第4

9 東陽寺 様  
38 興泉寺 様  
105 高德寺 様  
228 雲泉寺 様  
236 東岸寺 様  
264 海天寺 様  
265 東林寺 様  
295 普濟寺 様  
738 不動寺 様

## ●福島県

45 高国寺 様  
79 西松寺 様  
101 成林寺 様  
110 龍徳寺 様  
157 万持寺 様  
168 清光寺 様  
209 吉祥院 様  
226 常隆寺 様  
258 龍昌寺 様  
266 洞雲寺 様  
275 性源寺 様  
276 龍雲寺 様



JYBA  
ALL JAPAN  
YOUNG BUDDHIST  
ASSOCIATION

# 全日仏青 ニュース

## 「第1回世界仏教優秀指導者賞2014 村山博雅師受賞」報告



第1回世界仏教徒優秀指導者賞の表彰式が2014年2月15日タイ国家仏教事務局博物館講堂にて執り行われました。この表彰式は、仏教の宣揚と世界平和を祈念し、僧侶だけではなく在家仏教徒を含む仏教活動家への顕彰と啓発を目的として行われ、

タイ仏教会にとって記念すべき第1回目の表彰事業となり会場内に讃嘆と感動の波紋が広がっていく様子が見て取れました。

タイ国家仏教事務局と世界仏教徒青年連盟(WFBY:the World Fellowship of Buddhist Youth)が主催し、タイ国サンガ最高評議会より国内部門104名、国際部門74名(団体含む)が表彰され、当会より顧問の村山博雅師(WFBY副会長)が受賞しました。

村山師が進めてきた東日本大震災復興支援活動に関する海外への発信により、2013年3月、WFBY各加盟団体は三回忌に合わせ各地にて追悼法要を行い、そのビデオメッセージや手紙、献灯の蠟燭とともに来日した役員参列のもと、福島市音楽堂にて追悼慰霊・復興祈願法要が厳修されました。また同年8月には、各国代表者を含む国内外の青少年約100名が福島県いわき市に集い、現地における視察・レクチャー・交流を通じて被災地の実際と今を学ぶ復興支援・国際仏教徒青年交換プログ

ラム(IBYE)も開催されました。被災地の現状について仏教者として積極的な国際社会への発信、特に原発事故の海外における不確かな情報による風評被害を覆す正確な福島の情報発信した功績等が評価されての受賞となりました。

「Magha Puja Day」(釈尊が旧暦3月の満月の日に1250人の弟子に教えを説いたことに由来する仏教祭)に合わせて2日間にかけて行われた式典では、初日の夜に1キロ四方の敷地に100万本の灯を掲げる万灯供養が行われ約30万人の参列者と共にタイ国僧侶約2000人、世界各国から参集した僧侶数百名、中にはイタリアの僧院から平和活動家のガンチェン・ラマ僧も参加していました。日没とともに満月が上がり、その満月に見守られる中、瞑想法を取り入れた法要の最中に辺りは静まりかえり、実際に飛んでいた蚊の羽音が聞こえるほどで、まさにフルボリュームの静寂を体験させていただきました。僧侶から種灯が読経とともに次々に広がりゆくさまは時空を超えて釈尊の御教えが弟子から弟子へと相承される光景のようで、100万本が灯されるころには時間と空間の感覚はすでに無く、中心に鎮座する仏塔が赤く輝いて

いるのが印象的でした。1本の灯には1人

ないし複数の施主がおられ、中には乳飲み子を抱いたお母さん、小中高の学生参列者、カップル、会社員、中後年の人、様々な方がたが座って熱心に手を合わせて祈りを捧げられていました。この規模の法要に参加したことも初めてでしたし、これだけの篤い信仰に触れる経験ができたことは生涯忘れえぬ宝となりました。

文/全国曹洞宗青年会 副会長 岩崎哲秀



# 祈りのタスキを繋ぐ

## Inter Faith 駅伝参加レポート

この度、2014年2月16日に開催された京都マラソンに併催の「Inter Faith 駅伝」にランナーとして参加するご縁をいただきました。

学生時代、いろいろなスポーツをしてきましたが、一番苦手なマラソンということで、幾ばくかの不安を覚えながらも参加を決意しました。

この駅伝には、宗教、民族の枠を超え、人と人が一つの目標に向かってタスキを繋ぎ、心を繋いで、世界平和、東日本大震



災で被害に遭われた方がたの慰労や復興への願いがこめられています。そして、様々な想いを持って走るランナーたち、そのランナーに想いを託し、励まし、力になるようにするボランティアや沿道の方がたの存在によって、この駅伝が「祈りの駅伝」と名付けられたと、主催者である「Inter Faith 日本実行委員会」の方から教えていただきました。

また、日頃交流することの少ない神道、キリスト教、イスラム教、その他の宗教者

の方がたと様々なお話を交わすことのできる機会にもなっており、この駅伝が、様々な宗教が大きな紛争も無く共存しているこの日本、そして、その中でも伝統的な宗教都市である京都で開催されることにも大きな意味があります。

天候が心配されましたが、無事晴天となり、花園会館にランナーが全員集合して集合写

真を撮り、健闘を誓い合いました。参加ランナーは老若男女様々で、「Inter Faith 駅伝」発祥の地であるヨーロッパからも多数の参加者を得て、10チーム40名の参加となりました。

フルマラソンの経験者から、私のようなほぼ新品のランニングシューズとウェアに身を包む者や作務衣、袈裟姿に至るまでバラエティに富んだ顔ぶれでスタート地点を出発し、各中継所へと移動していききました。

第四区間を担当した私は、鴨川河川敷の第3中継所から平安神宮前までの10キロ弱を走らせてもらいました。途中、何度も歩きたくなりしましたが、様々な形で応援してくださる沿道の方がたから多くの力をいただき、何とか最後まで歩くことなくゴール出来ました。ゴール後も同じ区間を走ったランナー同士が健闘をたたえあい、無事に祈りのタスキを繋いだことを喜び合いました。

ただ走るというだけでなく、世界の平和、東北復興への願いをゼッケンにも記していたように、この駅伝が祈りの駅伝と名付けられた意味を、走ってみることで本当に実感することができました。表彰式の際に、京都市長が「小さな規模で始まるこの駅伝がやがて京都マラソンの名物と言われるように大きく育つことを願っている」と仰いました。この駅伝に参加したランナー、ボランティア全てがその想いを共有できたことと思います。

最後に、お世話になった事務局をはじめ、ボランティアの方がた、ともに走ったランナーの方がたに心から感謝申し上げます。

文／広報委員 田中昭範

守り伝えられし大切な伽藍、  
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

## 社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



株式会社 **カナメ**  
http://www.caname-jisha.jp

■ 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300  
 ■ 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882  
 ■ 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541

# 「これからの寺院と僧侶像」

## 共に考えましょう！

**初**の誌面と般若の連動企画ということ  
で不安もありましたが、50件を超える  
回答をいただきました。有難うございま  
した。

また、システムエラーで公開から2/28  
14:00までのデータが受信できなかった点

を、お詫び申し上げます。  
さて、いただきましたデータを見てい  
うと思います。

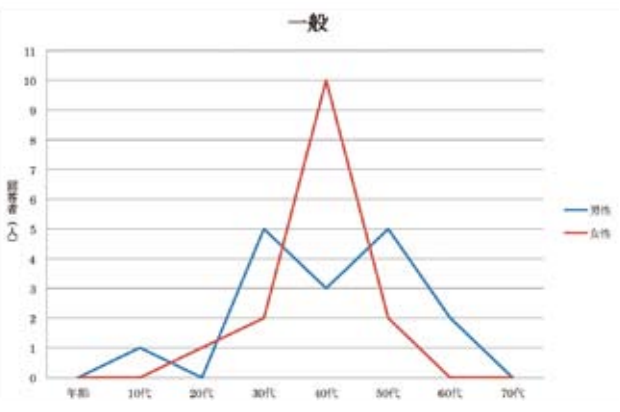
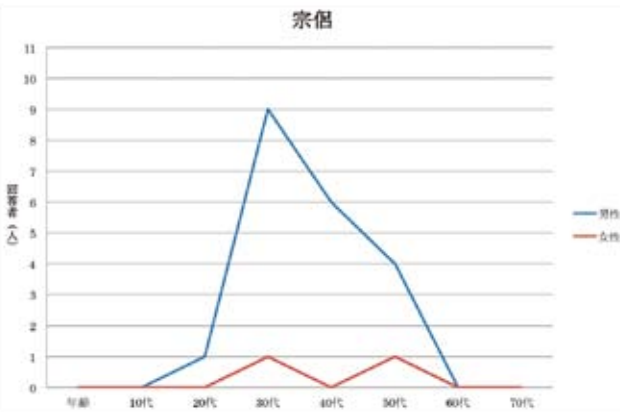
まず、宗教者(他宗の方からの回答はい  
ただけませんので、以下・宗侶とし

ます)・・・一般の方(以下・一  
般)の比率ですが22:31と  
一般からの回答が上回りま  
した。ありがたいことです。

それぞれの男女比を見ま  
すと、一般は16:15とほぼ  
同数なのに対し、宗侶は  
20:2と圧倒的に男性から  
の回答が多かったです。寺  
族の方、尼僧様方からの情  
報の吸い上げが今後の課題  
かと思えます。

次に仏教への親しみ方です  
が、以下の表のような結果に  
なりました。

一般が坐禅会を1位に上げ  
ているのに対して、宗侶の1  
位はホームページでした。そ  
のホームページですが、一般  
の方では4位と順位は高い  
ものの可及的速やかにとい  
う程でもない事が覗えます。た  
だ、坐禅会は宗侶でも2位



宗教者				一般			
順位	やってみたいこと	投票数/全体	割合	順位	やってほしいこと	投票数/全体	割合
1位	ホームページ	14/22	63.6%	1位	坐禅会	24/31	77.4%
2位	坐禅会	13/22	59.1%	2位	写経会	19/31	61.3%
3位	檀信徒の青年会	11/22	50.0%	3位	法話会	14/31	45.2%
4位	写経会	10/22	45.5%	4位	ホームページ	12/31	38.7%
4位	授戒会	10/22	45.5%	5位	料理教室	11/31	35.5%
以下	子ども坐禅会・日曜学校、料理教室、ご詠歌(梅花講)の会、門前掲示板、寺報、法話会 ボランティア活動、困りごと相談、檀信徒の婦人会、テレホン法話、その他(投票数順)			以下	ボランティア活動、子ども坐禅会・日曜学校、ご詠歌(梅花講)の会、寺報、檀信徒の青年会、授戒会、テレホン法話、困りごと相談、門前掲示板、檀信徒の婦人会、その他(投票数順)		



で坐禅会との差は1票であり、坐禅会に対するニーズは合致しているように思います。大きな差が出たのは、宗侶で圏外だった「法話会」や「料理教室」が一般の方ではランクインしている点です。寺院でのイベント企画には、重要なデータかと思われれます。

## 「その他」の紹介コーナー

ここでは、アンケート内その他の「具体的な内容」を紹介しつつ、検討してみたいと思います。

誌面の都合上、SOURCE日本誌では一部の内容のみを紹介致します。全ての内容に「[http://www.sousei.jp/page\\_id=4886](http://www.sousei.jp/page_id=4886)」をご覧ください。

お寺からのニコ生※1で、いろいろ相談事になる。法話のみならず、データ分析なども。かつて仏教が最先端の学問であった状況を取り戻す試みになればと思います。(10代男性一般)

まず、大変若い方に回答を頂いたことについて、ありがとうございます。電話相談とはまた違った緊張感のある活動になりそうですね。受け答えをする僧侶側の懐の深さが試されそうです。

田舎の血縁に絡む檀家同士のしがらみやトラブルに辟易しています。〇〇〇〇による、檀家での窃盗事件など、幻滅しています。(30代男性一般)

幻滅しながらもこうしてアンケートに答えて下さった事にまず感謝申し上げます。その点からまだ見限られたわけではないのか

なあとおもいます。個人を特定できる内容は削除させていただきましたが、(こういう事件は、あつてはならないことですが)どうか他のお寺にも目を向けていただけませんか? 各地で地道な活動をされている方がたくさんいらっしゃいます。

## まとめ

今回のアンケートは、宗侶の考える運営方法と一般の方が寺院に求めているモノとの間に意識は合致しているのか? もし、その差があるようなら軌道修正し、今後の寺院運営を占う事が目的でした。

ランキングを詳しく見ていきますと、宗侶は「寺院の運営」と言う点を重視し、一般は「イベントやアクティビティ」を重視している様子が浮かび上がります。

宗侶のランキングでは、ホームページ・檀信徒の青年会・授戒会といったコンテンツは対外的な宣伝であったり、運営面での安定化を求めているように思います。「その他」の書き込みの内容もどちらかと言うと固めの書き込みが多く、グリーンフケア・文化センターの活用・仏教講座といった内容が続きます。演奏会や落語会との回答は1件のみでした。この意識差が「敷居の高さ」につながっているのではないかと分析します。

ちなみに、この演奏会等々と答えてくださったのは50歳代の男性宗侶の方でした。20・30代の若い世代よりも、経験を積まれた方の方が一般の方と近い感覚を共有されているのかもしれない。大上段に構えるのではなく、周りの方がたのニーズを汲み上げる必要があるのだと思います。

一般のランキングでは、坐禅会・写経会・法話会・料理教室と参加型のイベントが続きます。やはり、「その他」の書き込みにも反映されており、ミニコンサート・ヨガ・写真講座・ワークショップといった文字が踊ります。宗侶が考えている内容よりも、ずっと軽めの内容が多いことに気づきます。

一般のランキングを読み解くキーワードは、「気軽さ」ではないでしょうか。そこに住んでいる宗侶は忘れがちですが、寺院という空間は「非日常」なのです。非日常に「気軽」に触れる場所であること、そのニーズは旅館や理髪店へのそれに近いものがあるかもしれません。静謐な場所での静養・修養によるリフレッシュが、「気軽な雰囲気」になるのだと思います。

## 次回予告

今回、一般の方の坐禅会へのニーズが大変高いことが判りました。

そこで、次回のアンケートでは坐禅会について掘り下げていきたいと思えます。詳しくは『般若』トップページ右側のバナーからアクセスしてください。次回もご協力お願い致します。

※1ニコ生／

ニコニコ放送。株式会社ニワゴが運営する「ニコニコ動画」内の生中継動画配信サービス。リアルタイムで配信する動画に、コメントをつけて楽しむことができる。

集計・文／広報副委員長 岡本真幸

広報特別委員 柳沢隆徳

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…  
どんなことでもお電話で  
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464  
Tel 080-1547-5646  
毎週日曜 22:00 ~ 24:00  
※相談料は無料(通話料は必要です)

両大本山御用達  
梅花流法具販売指定店

法衣・袈束・荘嚴・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号  
(大須交差点東北側)  
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904



【第二步】  
北海道帯広市 永祥寺住職  
織田秀道師 (35歳) に  
会いに行く

## 新 青年僧がゆく

今回は、教誨師としてご活躍されている織田秀道師に迫ります。ロックバンドのギタリストとして活動し、CDデビューも果たしましたが、父親であるお師匠様の四大不調により、出家することを決意しました。現在は隔週日曜日の坐禅会や『こども禅のつどい』を単独で開催されています。また平成25年4月より北海道の帯広刑務所の教誨師に任命され、坐禅指導や講話等を行っています。

### Q 上山後に師が遷化された時の気持ち

師が遷化したのは、ちょうど大本山永平寺の山門に立っている時間帯だったと聞いています。

出発の朝、上山の威儀で病院に行って挨拶をしたのですが、それが最後になりました。覚悟はしていました。亡くなってみると「もつと看病できたのでは」「もつと教えを乞えばよかった」という思いが湧き上がってきました。しかし暫刻の大変な生活が幸いして、あまり思いつめる余裕もなかった記憶があります。遷化の知らせが大本山永平寺に入った時、大変な時期だからと2週間ほど私の耳に入れないよう配慮してくださいましたことにも感謝しています。

### Q 若くして住職になったこと

先代住職は享年59歳でした。早いですが珍しくはないと思っています。当教区は温かい方ばかりで、助言をいただきながらなんとか務めています。また大本山永平寺安居前に1年間釧路の定光寺様に安居させていただいた経験が力になっています。

先代の遷化から5年ほど経ったある日、闘病していた病院の前を通った時にふいに涙が出たことがあります。その時ようやく、父が死んだということが自分の中で消化できた気がします。きちんと肉親の死に向き合う時間を取らなかつた心残りに気づきました。

### Q 教誨師としての活動内容とは？

教誨の形式には2種類あり、個人教誨と集団集合教誨があります。帯広刑務所では集合教誨を行っています。私は刑務所から割り当てられた「坐禅クラブ」という時間を担当しています。月に1回50分の時間を任されていて内容は自由なので、30分の坐禅と20分の法話を行っています。

宗務庁で年1回教誨師研修会があり、全国の教誨師が集まり日々の活動の中での課題を共有するのが励みになっています。

### Q 心がけていることは？

刑務所で参加者と顔を向き合わせるたび「世の中に悪人という人はいない。普通の人がいざという間に悪人になる」という夏目漱石の「こころ」の一文がよぎります。受刑者は我々と変わらない普通の人のしき見えます。ただ、苦しい生活状況の中で罪を犯してしまっただけなのだと思うと接していますし、話の中では裏も表も包み隠さず、何かしら心に残ることを伝えたいと思っています。先日教区に來られた布教師様の「特派布教師になるということは、特派布教師の勉強をさせていただけるようになったというだけのこと」という言葉を自分にあてはめて大切にしています。

### Q 全曹青の会員の皆さんに、最後に一言お願いします。

私は話し下手で、教誨師として適性があるとも思っていません。しかし努力すれば、一流とまではいかなくともそここのレベルまでは到達できるものと信じています。会員の皆様それぞれの立場で社会参加されている中で、ともに菩薩行を実践して参りましょう。

教誨師というお役目には縁遠い方も多いかと思いますが、取材を通し終始穏やかに話される姿を見て、布教とは相手の立場は関係ないことを改めて感じました。

取材・文／広報委員  
加藤芳憲



# 全曹青40周年

## 全曹青の足跡を訪ねて(4)



全曹青は、1975年に発足し、今期には40周年を迎えます。このコーナーは、記念の節目を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探っていく連載です。

### ■永平寺二祖国師大遠忌奉讃青年大会

昭和55年(1980年)、大本山永平寺二祖国師七百回大遠忌奉讃に合わせ、3月15日から17日の二泊三日の日程で「禅の集い 中央結集・禅文化学林」が開催された。一般参加者だけで募集を大幅に上回る130人近くとなる日もあり、全曹青だけでなく、御本山(後堂老師の提唱、会場準備、法要への随喜等)、外部講師(駒大教授、表千家宗匠)、尼僧団の御協力を得て盛会裏に開催された。

また奉讃事業として、従来より行われていた全国一斉托鉢運動や写経運動にも力を入れ、『写経のすすめ』を作成・配布するとともに、檀信徒に写経を勧めるだけでなく、全会員に写経への参加を要請した。

9月16日には、永平寺奉賛会・地元福井市との共催の形で、午前には大本山永平寺で写経納経法要、午後には福井市文化会館で奉讃特別記念演奏会が行われた。記念演奏会ではこの日の為に作られた黛敏郎氏作曲、藤田敏雄氏作詞による『カンタータ「只管打坐」涅槃交響曲』が2000人を超える東



京交響楽団と日本プロ合唱団連合により演奏された。

これらの事業は、全曹青の例年の事業を規模・予算ともに大きく上回った。写経事業・托鉢募金事業についてはそれぞれ独立して寄付等を行い、記念演奏会についてはこれをレコード化(5000枚、現在は絶版)し、その収益によって支出を補う予定だった。しかし販売には苦戦し、翌昭和56年6月に発行された『曹青通信』第21号の経過報告の時点で販売は約半分に止まり、その後3年に亘って『曹青通信』誌上で広告を掲載し購入を促した。

全曹青の活動が多様化し拡がりを見せる中で、発足当初からの組織構成を見直そうという動きが、この頃から見え始めた。

### ■組織再編と拡大

全曹青の発足当初は個人の道心発露に主眼を置いた「個人加入」であった。しかし組織拡大や事業拡大の流れの中で昭和55年5月、総会で「個人加入」から「全員加入」への移行と、全曹青綱領の制定などが議決された。

これを承け、第四期全曹青(1981年〜1983年(昭和56〜58年)、桑原大宗会長)では副会長を従来の2名から3名に増やし、それぞれに部門(組織充実、会員研

修の見直し、広報活動の展開)を担当させるとともに、会長を含めた4名が全国を4分割して各地区曹青とのパイプ役となるよう模索された。

宗門としては教化組織としての最前線の活動を期待される一方、『曹青通信』で「全曹青アレルギー」「全曹青に対する不信感」という言葉が使われたように、個人加入から全体加入への移行は決して容易ではなかったようである。広報誌である『曹青通信』の他に『入会のすすめ―全曹青六年のあゆみ―』という小冊子を作成し、全国の青年宗侶に全曹青への理解と参加を呼び掛けた。年が明けて昭和57年(1982年)年初の『曹青通信』23号では青年会員・地方曹青・連絡協議会・全曹青との相互関係が図を入れて記され、同24号では会則案が示され、ともに広く全国に意見を求めた。

同25号からは誌面の体裁を一新。従来4ページが基本を8〜10ページに拡げ、誌面の増加に伴い文字を大きくし、地方や外部からの提言、図書の紹介など、活動報告や組織内だけでない内容の充実が図られた。



第三期(佐藤泰博会長)の後半に行われた大遠忌事業は、これを成し遂げたことにより宗門での活躍も更に期待される一方、組織としては発足当初のままでは活動に追いつかない矛盾を抱え、大きな転換期を迎えることになりました。その中で、誌面の一新にも見られるような、開かれた全国組織としての活動が活発化していきます。

文／広報副委員長 宮入真道

# 現代的「講」モデルの参究

## 第3回

# 山形県庄内地方における 梅花講誕生と発展そして現在

(山形県庄内町・曹洞宗乗慶寺を訪ねて)



乗慶寺境内の様子

曹洞宗の布教化ポスターや境内参拝順路図などが所狭しに掲示され、頒布物も多岐にわたって設置してあり、平時よりの積極的な布教化の様子がうかがえます。お訪ねした3月31日は、丁度、教階別講習のうち、中・上級者を対象とした講習日にあたり、同時に、近隣の寺族の皆さんによる梅花流詠讃歌の研鑽団体「秋桜会」の月1回の練習日でもありました。山内が講師・寺族の皆さんで賑わう中、不在の乗慶寺・阿部伸世御住職にかわり、寺族の阿部真智子さんが対応してくださいました。

乗慶寺は、人口23,000人を数える庄内町に位置し、近くにはJR羽越本線の余目駅があります。周囲を田畑が囲んでいるほか、幹線道路が走り交通量も比較的多い立地です。乗慶寺の本堂及び客殿の壁面には、

詳しいお話をお伺いする前に、まずは教階別講習の様子を拝見させていただきました。本堂の脇間には15名の講師さんが参集し、検定の課題曲などを熱心に練習されています。講習の約8割を、講長である阿部伸世師が担当されるのですが、一部については真智子さんが指導されるそうです。講習は、時折笑いもありながらも、程よい緊張感の中で進められます。1時間ほどの講習終了後は、テーブルが並べられて茶話会が準備され、お菓子やお茶をいただきますながらリラックスした談笑の場となります。



客殿内には沢山の掲示物が



中上級者向け講習の様子



練習後の茶話会(秋桜会の皆さん)

山形県庄内地方は、島蘭進東京大学教授(当時)の論文「第二次世界大戦後の仏教教団と御詠歌講―東北地方の曹洞宗梅花講―」の中でも取り上げられています。梅花講の活動が盛んな地域です。庄内地方を包括する山形県第三宗務所には252講(316寺院中)の梅花講の活動があり、講習数は19,963名を数えます。(平成26年3月現在)。その庄内地方における梅花講発展の経緯と現状、さらには今後の課題や展望を探るべく、庄内地方の中でも講習数の最も多い(名簿上は400名)、講習や大会等に参加しているのは150名程度)乗慶寺を訪ねました。

「秋桜会」の皆さんも別室にて練習に励まれた後は茶話会の席が設けられ、持ち寄ったお菓子などをいただきながら、それぞれの梅花講の悩みを共有するほか、寺院運営全般について意見を交換する場ともなっています。

○はじめは密厳流から  
→通夜念仏に必要だった御詠歌

乗慶寺梅花講は、昭和31年に20名の講習員で発足。しかし、それ以前にも、先代住職のご兄弟が講師となり、昭和11年から密厳流御詠歌を乗慶寺で指導されていたそうです。

毎月24日を講習日に設定し、梅花講発足直前まで密厳流が続いていたとのこと。梅花講の全国的な展開にあわせて変更したとのことですが、密厳流と比較してお唱えが易しいことからスムーズに梅花流へと移行したようです。その結果、現在では70歳代の高齢層から30歳代まで講習員の年齢層も幅広く、講習員数も日本有数の梅花講へと発展しました。

では、何故、ここまで乗慶寺、そして庄内地方の曹洞宗寺院において梅花講が発展したのでしょうか? その何よりの理由が、「通夜念仏」にあります。庄内地方の通夜は、僧侶を呼ばない場合もあり、地域毎に念仏講

があり、念仏講員が通夜の際にその地域の葬家に出向き、念仏をお唱えして故人を弔っていました（現在でもそのしきたりが残っており、セレモニーホールや葬祭会館などで通夜が営まれる場合でも、葬儀社によって念仏の準備がなされるそうです）。通夜念仏は地域毎の相互扶助で行われており、その地域に所属する家（イエ）は、誰かしら（そのイエを代表する立場の女性が多い）が念仏講に所属していることが暗に求められます。その念仏講の受け皿・研鑽の場として、梅花講が受け入れられたようです。さらには、庄内地方では、霊場巡拝の習慣が盛んであり、現世において修行を積んだその証として、笈摺（おいずる）を着てあの世に行くという信仰が根強く残っています。梅花講に所属し、講員同士の霊場巡拝が大きな楽しみ・宗教娯楽として親しまれてきました。そうした点もあいまって、庄内地方では梅花講が盛んになったと思われ

### ○梅花講の仲間は一生の仲間

#### ～同行同修の連帯感

取材にうかがった日に講習に参加されていた講員の皆さんにお話を聞きました。異口同音におっしゃっていたのが、「通夜念仏」でお唱えするため、その使命感が強いということです。最初は、半強制的に念仏講および梅花講に参加する方が多いようですが、参加しているうちに、「通夜念仏」の場において、遺族に感謝され、また参列された方から「感激した」「これこそ、本来の音楽ですね」などと言われることにより、充実感を感じ使命

に、法要でのお唱えや、清興やゲームまで用意された新年会、庄内大会や全国大会への参加など、長年付き合いを重ねる中で、同じ講の方が亡くなった際には、そのお仲間が「通夜念仏」によって送ってくれる。そのことが安心感と連帯感を生むようです。検定については、重荷に思う一方で、「やりがいや目標ができ、緊張感の中で向上心を生む」という声を多く聞きました。さらには、講長や寺族が一生懸命に講習で指導してくれ、お世話をしてくださることによって、その講への帰属意識が高まるようです。もちろん、女性だけの外出が困難であった時代にあつて、「梅花講」に関わる行事の際に、大手を振って旅行でき、その中で特に夕食を共にして多に楽しむことができた、とのお話もうかがえ、そのことも梅花講に関わる大きなモチベーションとなつていくことがわかりました。

### ○運営の秘訣は

「講長・寺族がしっかりと講に関わり、  
決裁・リードをすること」

100名を超える大所帯である乗慶寺では、地区毎に1人ずつ連絡員を決め、要望や



秋桜会の皆さん

連絡事項を伝えてもらってはいるものの、役員が決裁をしたり指導をしたりすることはせず、講習や決裁などは全て講長である阿部師や詠範資格を持つ眞智子さんがなされています。秋桜会に参加されていた寺族の皆さんも、指導・決裁はやはり、講長・寺族が行うべきであるとおっしゃっていました。そうした指導する役割を担う寺族として会に所属するなかで、指導者としての研鑽・情報共有の場とすることができるようです。また、講に参加された、とりわけ初心の講員さん

### ○梅花講運営の課題と今後の展望

寺院の運営において、掃除や行事補佐には「デイリ」と呼ばれる、古くからの家単位でのお手伝いも残りますが、多くの梅花講員も関わってくれており、また、仏教・禅の教えに親しむ機縁となってきた庄内地方の「梅庄講」。

その背景には通夜念仏を担う「念仏講」があり、念仏はそれぞれの「家（イエ）」単位の役割でもあります。その役割を「ヤヤク」（家役）としてその「イエ」を代表する女性が担ってきました。そして、一定の年齢（70代が多いとのこと）に達したところで、そのイエの

次の世代に受け継がれていきます。しかしながら、少子化による若年世代の人口減により、

講員数は微減の局面に入っています。一方で、若い世代の中には、ご詠歌を全く新しいカルチャーとしてとらえ、一旦始めてみると「梅花つて楽しい！」と、ガラリと認識が変わるケースもあるようです。秋桜会の皆さんからは、「梅花と仏教讃歌等の歌を両方楽しめる機会を作っては」「近年、仏教をわかり易く説いている梅花流詠讃歌が海外で注目されていることに目を向け、海外で梅花流詠讃歌を

### ○おわりに

「通夜念仏」という、全国的には珍しい葬送儀礼が残っているからこそ庄内地方での梅花講の発展ですが、そこには、「梅花講」が本来持っていた魅力や運営の秘訣が、今も息づいています。講員数の減少が問題になつて

いる中、庄内地方の「梅花講」にその原点を見たことと同時に、少子化などによる若年層の参加率の低下については、全国共通の課題として、その解決の糸口を探っていく必要性をあらためて感じました。今後の連載においては、その参考とすべく、他教団の「講」的組織の現状や課題などをケーススタディする予定です。

取材・文／広報委員長 長岡俊成  
監修／曹洞宗総合研究センター  
専任研究員 平子泰弘

# 災害復興支援部 ニュースレター



## 平

成26年3月10日、東日本大震災慰霊  
速夜法要が福島県伊達市成林寺様に  
て厳修されました。11日の各被災地正當供  
養への足掛かりに、全国各地より超宗派の  
青年僧侶が福島に参集し、それぞれに「願  
い」・「祈り」を手向けました。ご参集いただ  
きました皆様、ご協力、ご協賛いただきま  
した関係各団体の皆様に御礼申し上げます。

東日本大震災より3年の歳月が流れまし  
た。「もう3年」「まだ3年」。無常の時の中、  
人それぞれに想いを廻らし、「今」を迎えて  
います。

今もなお26万人以上の方がたが地元を離  
れ避難生活していると聞きます。被災地の  
方がたが一番に不安に思うことは「忘れ去  
られること」ではないでしょうか。震災直  
後には数多くのボランティア団体が入り、  
毎日の様にメディアでも報道されていまし  
たが少しずつ、しかし確実に減ってきてい  
るのが現状です。

人間の「慣れ」と言うのは良い面も悪い面  
もあり、あれほど「明日は我が身」と防災  
グッズをそろえ身構えて居たのが3年の内  
に薄れ、すぐに逃げられる様にと枕元に  
有った物が徐々に少なくなります。震災の  
記憶を忘れずに想い続けるためには、継続  
的なボランティア活動と地道な広報活動  
が、今後5年10年、いやもっともっと先ま  
で必要です。例えば、地元で復興を目指し  
て頑張っている商店やメーカーさんを訪ね



つつ、「東北に行く」と楽しい」「新鮮な魚介類  
が美味しい」「東北の大自然が素晴らしい」  
といったことを伝えていく活動です。団体  
でも個人でもその場では小さな力かもしれ  
ませんが、楽しい事、美味しい物、素晴ら  
しい物をお土産として1つ持ち帰ること  
で、その点がやがて大きな円(縁)になり、

たくさんの人に関わりを持っていただくこ  
とで長期に渡る被災地支援が可能になるの  
ではないでしょうか。

「重なったいくつかの円が偶然作る花模  
様の 出会いも同じ縁と言うから僕にも笑顔  
の花が咲いたよ」私の好きな言葉です。無  
造作に何度も書かれた円の中、偶然重なり  
合う事で出来た花の模様、人と人の出会い  
も同じように縁と言うのだからあなたとの  
出会いで笑顔の花が咲きました。

被災地、被災者全体の復興が最終目標で  
すがその為には先ず1対1の会話からで  
す。私も微力ながら縁の一部となり1人で  
も多く笑顔の花が咲きますよう邁進いたし  
ます。

最後になりましたが、速夜法要当日は、  
受付補佐として参加させていただきました屋外で  
受付をしておりました。時折雪がちらつき  
風も強いこともあってガタガタと体が震え  
「寒い寒い」と呪文の様に呟いておりました。  
ちやうど3年前のこの日、水に濡れ暖  
をとる火も無く、凍える様な寒さの中で、  
生きる為に耐え抜いた方がたが居たのだと  
思い返した途端に自分が恥ずかしくなり、  
合掌いたしました。あらためて震災で亡く  
なられた方がたのご冥福をお祈りするとと  
もに、被災地の早期復興をご祈願いたしま  
す。

文／広報委員 災害復興支援部事務局

担当 鬼頭大輝



■北海道第一宗務所青年会

40周年記念事業実行委員会

委員長 荒木道宗  
当会40周年にあたり、40周年記念事業実行委員会委員長の役を拝命させていただきました。この周年において過去と未来を繋げ、この40年が歴代の諸先輩方の精進により繋がってきたことを再確認し、今期スローガン「繋がる想いが未来を拓く」のもと、未来を拓く契機として諸事業を行なう思いでありますので、よろしくお願いたします。



■北海道第一宗務所青年会

齋藤秀光

今期、40周年記念事業実行委員の任を拝命いたしました齋藤秀光でございます。記念事業は青少年教化・傾聴研修・一般対象・記念式典・記念誌事業がございます。この多岐にわたる周年事業が次世代へと繋がります。また未来へ拓かれる事を切に願います。浅学の身ではありませんが一期二年という限られた任期を微力ながら務めさせていただきます。



■宮城県曹洞宗青年会

40周年記念事業実行委員会

今期スローガンは「繋がる想いが未来を拓く」です。これまで全曹青に携わってこられた方がた、そしてこれから携わる皆様繋がっていただけるような40周年記念事業を行って参りたい所存です。よろしくお願い申し上げます。



副委員長 神作紹道

■曹洞宗山梨県青年会

河口智賢

この度貴重なご法縁を賜り40周年記念事業実行委員を拝命いたしました。今期二年間という限られた期間の中で節目である記念事業を通じて、全国の青年会員の皆様に広く我々の活動を周知し、諸老師方より繋がれてきた想いを更に繋げら



■新潟県曹洞宗青年会

今期、40周年記念事業委員会に

加させていただきます。念事業委員会に参っております。永島昌英と申します。10年に一度の特



永島昌英

■愛知県第一宗務所

東三河曹洞宗青年会

今20期、全曹青40周年という節目に、記念事業委員としてご縁をいただきました。私の些少な力では何ものにも成り得ませんが、全曹青の皆様・全国各地の皆様と力を合わせれば大きな何かが生まれると信じております。残りの任期、ひとつひとつの行事が円成するように務めていきたいと思っております。



渡邊亮弘

■大阪曹洞宗青年会

加藤月海

この度40周年記念事業実行委員を仰せつかりました加藤月海でございます。まずもって40周年という会い難き勝縁に巡り会えた事に感謝いたします。全曹青へは初めての参加という事もあり、右往左往しながらではあります。発足以来、先輩諸老師より繋がられてきた想いで未来を拓いて行けるよう、益々精進して参りたいと存じます。



■曹洞宗鳥取県青年会

岸本隆志

40周年記念事業実行委員会に参加しております鳥取県青年会岸本隆志と申します。荒木委員長の元、委員の皆様と協力し、事業の円成に向けて、甚だ微力ではございますが、尽力致す所存でございます。何卒よろしくお願いたします。



■四国地区曹洞宗青年会

今般、40周年記念事業実行委員の任を拝しました。

基より不徳菲才の身は自知して居ります。如何程の御役に立ちますかと危惧致しておりますが、諸師方の御指導をおおき、微力ながら躬を竭くす所存であります。全曹青発足時からの諸先輩方の40年の先蹤を崇敬し、今日ここにある恩徳深き因縁に感謝いたします。



川本哲志

■宮崎県曹洞宗青年会

野田志裕

初めての全曹青参加にも拘わらず、40周年記念事業実行委員に拝命され、法縁の尊さに感謝致しております。皆様と共に想いを繋げ、良き節目となりますよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。



## 編集後記

私はパンが好きです。

ある日の事、焼き立ての時間を狙って近所のパン屋に行き、帰り道ウキウキした気分で車を走らせていましたら、前の車の青年運転手が窓から顔を出し、噛んでいたガムを道路に吐き出しました。ふむ…。

たった1個のガムで気分が悪くなることもあります。もしかしたら青年もなにか嫌なことがあってイライラしていたのかもしれない。想いを繋げるというのは、たとえ小さな町の中だけでも難しい事なのだと痛感しました。

「世界中の想いを一つにする為に努力しなければ!」とビザパンをかじりながら誓いを立てました。

(広報委員 加藤芳憲)

### ■表紙の話



今号の2大特集は、共に「繋がる」をテーマにしました。

ともすると、お寺とお檀家さんたちの関係は、それぞれの家を代表する女性に偏りがちですが、今号の表紙では、前号で登場したおばあさんの家のお嫁さんと小さなお孫さん(役)に登場いただき、托鉢の合間で生まれた、ふとした「繋がった」場面を描きました。

托鉢という、古来から受け継がれてきた修行の中で、子どもとふと目が合ったことで生まれた「小さな繋がり」。その小さな種が、いつの日か仏縁へとつながっていくかもしれない…。そんな希望をいただきながら、雲水はこれからも旅を続けてまいります。

表紙撮影/谷杉アキラ氏(函館市)  
協力/曹洞宗 慈眼山広徳寺



## 全国曹洞宗青年会40周年記念事業

# 『傾聴研修会』のご案内

**当** 全国曹洞宗青年会も第20期の任期となり、40周年の節目を迎えることとなりました。ひとえに先輩諸老師・会員諸師の皆様のご精進・ご協力の賜物と感謝の念に耐えません。当全国曹洞宗青年会はこの40周年を記念して下記の日程にて『傾聴研修会』を開催致します。

今回、福島において開催する研修会では“声なき声に耳を澄ます”というテーマで行います。傾聴の基礎を学ぶ中で青年僧侶同士の意識の共有を図り、また発災から4年目の被災地の現状を捉えなおす機会になればと考えます。

ご多忙中とは存じ上げますが、是非ともご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

### 記

- 日時 平成26年6月25日(水)  
12:00受付(13:00開講式・研修～20:00)  
平成26年6月26日(木)  
9:00～12:00散会
- 場所 ホテル辰巳屋 福島県福島市栄町5-1  
Tel 024-522-5111
- 駐車場 辰巳屋地下駐車場をご利用ください。(高さ制限1.8m)  
満車の時は近隣の有料駐車場をご利用下さい。
- 参加費 5,000円
- 参加定員 80名(会場の都合により、定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 威儀 改良衣(受講中は作務衣も可)にてお願い致します。
- 持物 筆記用具等をお持ちください。
- 主催 全国曹洞宗青年会  
40周年記念事業実行委員会  
『観世ふおん』特別委員会

参加申込はHP『般若』(<http://www.sousei.gr.jp/>)からお願いいたします。